

今、私が牧会をしております桜ヶ丘教会では、私が赴任した2017年度から教会におけるスモールグループ活動を少しずつ取り入れてきました。また教会で長年続けてきた壮年会、婦人会という組織的活動を2018年度で終了し、2019年度からは年代別小グループ活動を開始しました。この小グループ活動で行うことは、

①礼拝で語られたみことばを聞き ②教えられたことを分かちあい ③祈りあうことで、信徒の信仰が実生活で生きて働くことを目指していくものです。

2019年5月には教会内での小グループ活動に20年ほど取り組んでいる高座教会の松本牧師夫妻を講師にお招きして研修会を開き、小グループ活動の理念と実際について学びました。2019年度から始まった小グループ活動を整理すると

(1) 年代別小グループ

毎月、第3聖日の第二礼拝後に、学生グループから80代まで合わせて9つの小グループでそれぞれ集まる。内容はおもに礼拝の恵みの分かち合い。週報に記した説教に関する質問を参考に、各々のグループの世話役のリードのもとで、45分間の分かち合いと祈りの時を持つ。小グループ活動の鍵と言われる世話役たちの集いを年4回開き、小グループ活動の目指す点を学ぶ。第一礼拝出席者から牧師の呼びかけに応えた人たちも有志の集まりを持ち、同様の分かち合いと祈りの時を持った。

(2) テーマ別小グループ

①現代社会を考える会、②賛美の会、③朗読の会、④ヨシュア会（子育て世代の父親の会）、⑤山手線小グループ（遠方から礼拝に来会している大学生たちのフォローアップを目的とした会。御言葉の恵みの分かち合いなど）、⑥社会人青年小グループなどの活動が行われました。④⑤⑥は日曜以外の平日に実施。

2020年度はコロナ禍となり、前年始まったばかりの小グループ活動の継続が困難になりました。しかし一方でズームを用いた小グループの交わりが生まれました。2020年度から21年度の今まで実施している小グループ活動として

①礼拝説教の分かち合い

\*年代を問わず有志が参加してズームで。司会は牧師が担う。

\*40, 50代グループの礼拝分かち合いをズームで

この会をリードしている兄姉は、昨年10月のスモールグループセミナーに出席。

②聖書日課の分かち合い（教会の週報に毎週掲載している「今週の聖書日課」で

読んだ中から教えられたことを分かちあう有志の会をズームで月に1度）

③SYKの手引（「ローマ人への手紙」）を用いたグローイングアップクラス

（現在はオンラインで）

毎月第1週の土曜日の10時～11時半に実施。司会は牧師。手引を用いた聖研をとおして互いの信仰の分かち合いの場となっている。また今までほとんどまともな会話をしていなかった教会員同士が親しくなれる機会となっている。

#### ④オンライン読書会

30代の牧師の発案で開始。毎週金曜日の午前10時半～11時半まで三浦綾子著「愛の鬼才」、火曜日午後8時～9時はN・Tライト著「クリスチャンであるとは」をそれぞれオーディオブックを用いて実施。教会の礼拝に見えている未信の方も参加されるようになってきている。それほど深まった話し合いにはならないが、どちらも信仰の整理や証しや交わりの場となっている。終わりの時間がはっきりしているのも継続のために益となっているように思う。

#### ⑤未信の人と「救いの基礎」を手引とした牧師夫婦との3名による聖研

コロナ禍の制限付きの礼拝でありながら、昨年末から教会に見えている2人の未信の方とそれぞれ個人的に聖書の学びを継続中。回を重ねるごとに心を開き信仰を持つことに前向きになっている。

#### ⑥オンラインでの礼拝準備祈祷会

土曜日の午前9時半から50分までの20分、翌日の3回の礼拝の奉仕者のために名をあげて祈ることを4月から始めている。奉仕者自身にとっての備えの時となり、とりなしの祈りの実践の場、礼拝そのものの備えの時ともなっている。

#### ⑦木曜夜のオンライン祈祷会

コロナ禍前までは、毎週教会で開いていたが、現在は月1度、オンラインで実施。結果として4～5名の小グループで実施している。そこでは対面式ではできていなかった個人的な分かち合いと祈りがとても充実している。

以上の取り組みの中での感謝と課題を整理してみると

##### (1) 感謝

- ① 3名ほどの小グループなら、コロナ禍でもアクリル板を用いれば対面式での聖書の学びは可能である。また伝道の好機となっている。
- ② オンライン (zoom) での祈り会、聖研、分かち合いは慣れるに従って定着してきた。今まで同じ教会のメンバーでありながら話す機会のなかった人たちとの交わりの機会が広がるようになってきた。
- ③ 説教をただ聞いたままでなく、聞いてどう思ったか、どのように適用しようと示されたかを考え、分かちあうことでみことばを聴くことの喜びが大きくなる。

##### (2) 課題

- ① 今実施している小グループに関わっているのは教会員全体のほんの一握りの人たち。教会全体で小グループの意義や求めが浸透しているとは言えない。
- ② 小グループのリード役は、ほとんど牧師が担っている段階。働き全体が広がるにはリーダー的な信徒の人たちが増えていくことが必須。そのためにはまず小グループの幸いや楽しさを味わう経験をする人の裾野が広がるように。
- ③ 長い間、小グループのような交わり (自分で発言すること、人の話を聞くこと) に慣れていない人にとって、小グループの時間は魅力を感じることができず、かえって苦痛を感じる人たち (意外と教会生活の長い人たち) がいる。「分かち合う」経験の少なかった人たちにとって、みことばから教えられたことを言葉にして伝えること、また自分がどう思い、どう行動していこうと考えたかを、他の人に話すことが難しい。「正解」を言わなければと考え、緊張する人たち (特に

比較的年輩の人たち)が結構おられる。

### (3) 展望

#### ① 年代別小グループの再開

ズームが可能なグループは積極的に用いていく。

ズームであれば、日曜日に限らず、平日で時間のとれる時、終わりの時間を定めて続ける。

小さくはじめる。毎週行うことを目指したいが、当座は月1回からでも。

#### ② 分かち合いの内容はシンプルに。

(前回のアナさんの小グループで行っている礼拝分かち合いの内容を聞いて)

- ・ 説教の聖書箇所から神(父なる神、イエス、聖霊)についてどんなことを発見したか。
- ・ 説教から悔い改めたことは何かあったか。
- ・ 学んだことを実生活でどのように生かしたか。生かしていきたいか。

\*これは稲垣師が仰せのように聖書同盟の「みことばの光」で長く取り組んでいるお勧め。

#### ③ 小グループのリーダーを担っていただけそうな人への働きかけ。

リーダー候補の人には、まずご自身で小グループの幸いを体験していただく。

また小グループの喜びの機会を継続的に経験していただく勧めを。

(この勧めは「静まりのリトリート」を導く人たちの勧めとして強調されている)

(東京 FM 桜ヶ丘教会牧師 水口 功)

## \*資料

教会の40, 50代小グループの2名の世話役に以下について応えていただきました。

### 1、毎月、小グループでの礼拝の分かち合いを導いていく中で感じていること

#### ①感謝・祝福

少ない人数ながら毎月継続できていること。平均4.5名のところ5月は7名の参加者が与えられ久しぶりの方の近況を伺い祈り合うことができたこと。定期的にお話を伺う中で一人一人が主の導きの内に歩まれている姿を見られること。同じメッセージでも人によって受け取り方が異なり、新たな視点で再認識でき、新たな恵みを受け取ることができること。

#### ②課題

継続して参加される方が起こされること。特に、40代の男性が少ないこと。初めて参加された方に伺ったところ「敷居が高くて（参加しづらい）」とのこと。何がそういった印象を持たせてしまっているのか分からない。参加しやすい空気になるように工夫が必要かもしれない。この世代は、層が薄い割には教会役員、責任役員、CS教師など重要な奉仕をしている者が多く、本来なら教会の要になるべき世代である。小グループでの交わりや祈りがお互いの霊的励ましになればと願う。

### 2 昨年10月10日に行われたスモールグループセミナーにオンライン参加の感想

#### ①セミナーに参加した感想

小グループで集まることの意義を改めて学ぶことができました。礼拝で語られるメッセージを受け取ること（一方的）だけでなく、小グループ（双方向）で分かち合いを行うことでどのような恵みを受けとることができるのか具体的に示していただき、中断していた小グループの活動をオンライ

ンで再開するにあたっての指針になったと思います。また、リーダーの心得についても示唆を受けました。参加者の主体性を重んじて自由に発言していただく一方、教会や信仰に関係のない世間話に流されないように、上手に軌道修正していくファシリテーター的な知恵が必要だと感じました。

②セミナー後に参考になったことが何かありますか。

「聖書の権威」のお話のところで、「勝手に解釈しない」「みことばに忠実に」と語られ、謙虚な姿勢を持ちつつ、また「表面的でなく」「聖書を超えない」「正しいことを言わないといけない」という雰囲気？は NG」などのお話も会を進行する上で常に意識していく必要性を思わされました。

みことばと説き明かしをどう受けとめたか、まず自身の内で整理し、次にそれを言語化して人にも伝えるというのは、靈的にとてもよい訓練の機会だと思います。それを積み重ねていけば、主にあるすばらしい交わりの場になればと期待します。